高校生期の親，友人，教師への愛着に関する横断研究

○鈴木建生（ユマニテク短期大学）　鈴木茂廣＃（名城大学）
伊藤康児（名城大学）

キーワード：愛着，高校生，横断研究

問題と目的

近年，学校教育へのアクティブ・ラーニングの導入が進み，全国の全日制高校 4,703 校を対象にした郵送調査に 90.4%の高校が導入していると回答している（リクルート進学総研，2019）。アクティブ・ラーニングの中核とされる協同学習（杉江，2016）を高校で行うにあたり，生徒たちの他者への愛着の発達と協同学習の認識や学習活動がどう関係するかは明らかでない。

本研究は協同学習に全校あげて取り組む高校生の他者への愛着の発達を質問紙調査により学年横断的に明らかにすることを目的とする。

方　法

調査対象者

M県内の私立高等学校の全校生徒 547 名。

調査の手続きと期間

担任教師に教示，調査用紙の配布・回収を依頼し，2018 年 7 月，全校一斉のホームルームの時間に調査を行った。

質問紙の構成

質問紙のうち本研究に直接関わる部分としては，高橋（2010）による「愛情のネットワーク・モデル」にもとづく愛着関係尺度（Affective Relationships Scale）12 項目を用いた。愛着対象の候補は父親，母親，同性の友人，異性の友人，現在受けている授業の教科担任の教師，現在所属している部活動顧問の教師の 6 名とした。友人については，いつも会っていて，相談にのってもらったり，何でも話したりできる年齢の近い人との説明を付記した。回答は，あなたとあなたにとって大切な人との関係について，あなたの気持ちがどれにあてはまるか，を 5 件法で求めた。

結果と考察

愛着関係尺度への 5 件法による回答に 5 から 1 の点数を与えて 6 人の愛着対象の候補それぞれについて平均尺度得点を算出し，学年と性別ごとに集計した平均値を Figure 1，Figure 2，Figure 3 にまとめた。Figure 2 のとおり同性の友人への愛着はきわめて高く，ついで Figure 1，Figure 2 のとおり両親，異性の友人への愛着も高いことが示された。両親への愛着は学年につれて女子は上昇傾向，男子は 2 年生がピークの山型傾向が見られた。友人への愛着には学年と性別による明確な違いが見られなかった。

教師への愛着は Figure 3 のとおり両親，友人ほど高くはなく中程度となり，部活動の顧問への愛着は男女とも 2 年生，3 年生で高かった。教科担任の教師への愛着は，実質はクラス担任への愛着と推測されるが，男子は 1 年生から 2 年生にかけて上昇して 3 年生は大きく下降，女子は 1 年生と 2 年生で低く 3 年生は大きく上昇，という対照的な推移が示された。

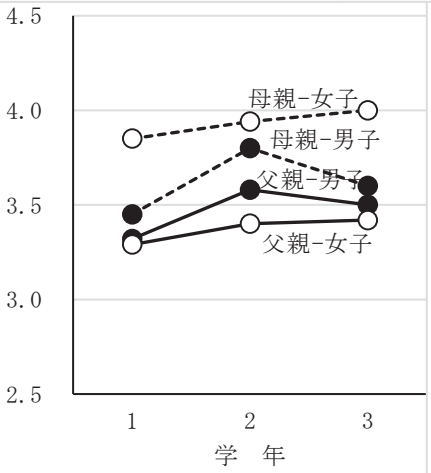

Figure 1 親への愛着

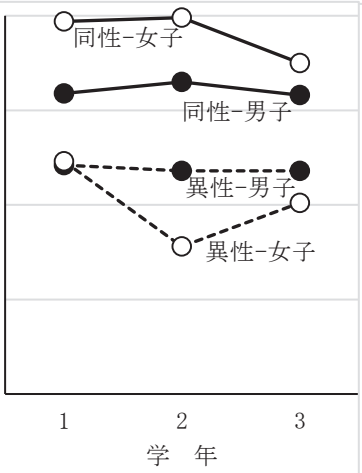

Figure 2 友人への愛着

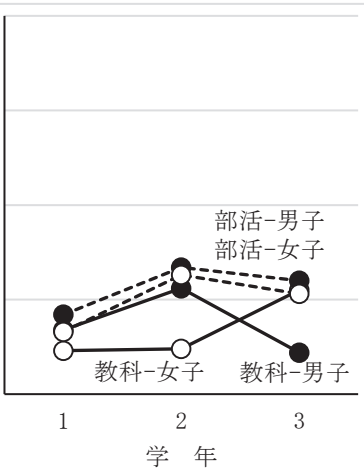

Figure 3 教師への愛着